ニュースリリース

学校法人
川崎学園

2025/11/14

報道関係 各位

【研究発表】
安全性の高い新規弱毒生インフルエンザワクチンの開発
（川崎医科大学 微生物学教室 齊藤教授の研究グループ）

【研究の背景】

インフルエンザワクチンの一種である弱毒生ワクチン（製品名フルミスト）は、生きたインフルエンザウイルス自体を鼻に噴霧接種するタイプであり、2024 年から本邦での使用が承認されました。フルミストは、弱毒化された生きたウイルスを使用しており、従来の不活化ワクチン（HA ワクチン）よりも発症予防効果に優れています。しかし、弱毒化されているとはいえ、生ワクチン接種後にインフルエンザ症状を発症する場合があるため、副反応が少ないワクチンの開発が求められていました。

【研究成果の概要と意義】

川崎医科大学微生物学教室の研究グループは、実験用マウスを用いたウイルス感染実験などにおいて、フルミストと同等の感染予防効果を持つ新規の弱毒生インフルエンザワクチンの開発に成功しました。今回私たちが開発した生ワクチン用ウイルス株は、ワクチン接種後の副反応の発現を著しく抑制する特徴を有しています。さらに、本研究成果は、国産の弱毒生インフルエンザワクチンの供給を可能にする技術的基盤を提供します。

本研究論文は、米国の科学雑誌 Journal of Virology の電子版に、2025 年 11 月 13 日付で掲載されました。

【今後の展開】

本研究成果の社会実装を目指し、新規ワクチンの安全性と安定性の検討に加えて、ワクチン効果の持続性などを評価する応用研究を計画しています。

【発表論文の情報】

学術雑誌名： Journal of Virology
論文タイトル：Live-attenuated influenza virus vaccine strain with an engineered temperature-sensitive and genetically stable viral polymerase variant.
タイトル和文：低温増殖性および遺伝的安定性に優れたウイルスポリメラーゼ変異株を応用した弱毒生インフルエンザワクチンの開発
著者名：内藤忠相、後川 潤、國塩 幸、矢野絵圭、齋藤 奨、髭内大成、藤田一樹、齊藤峰輝
著者所属：川崎医科大学 微生物学教室
DOI：https://doi.org/10.1128/jvi.01390-25

＜問合せ先＞ 広報について
川崎医科大学 庶務課
課長 大森 義治
Tel 086－462－1111(代)

＜問合せ先＞ 研究について
川崎医科大学 微生物学教室
教授 齊藤峰輝（さいとう みねき）
Tel 086－462－1111(代)

発行：学校法人 川崎学園 大学事務局 総務部
広報連携室 Tel 086-462-1111（代）